

「教育費」がなくなったライフスタイルの変化、



消費支出も変わりました。



～あるモニターさん（63歳）の“家計簿”から～

ある日、片付けをしていて“家計簿”が16冊になったことに気づきました。

昔の“家計簿”を見ながら「教育費」が出る頃は大変だったんだなと、あの頃を懐かしく思い出しました。10数年の生活を振り返り、「教育費」のあった時とない今とのライフスタイルの変化による消費支出の変わり方を比べてみようと思いました。「教育費」のあった1997年の数字をもとにライフスタイルの変化と併せて増減のあった費目を選んで、比べて見ました。

（1997年を1とした倍数）

消費支出	2000年	2003年	2005年	2009年	2011年
食費	1.13	0.93	1.25	1.04	1.22
水光熱費	1.37	0.99	1.13	0.87	0.80
交際費	0.77	0.57	1.43	1.68	0.80
通信費	1.09	1.16	1.41	1.39	1.44
教育費	0.45	0	0	0	0
教養娯楽費	0.92	1.87	2.89	2.40	1.65
職業主婦費	0.97	2.24	2.89	1.77	2.51
非消費支出	0.71	0.86	0.83	0.97	0.97

・妻携帯電話使用
(2000. 1月)

・次男大学卒業
(2000. 3月)

・次男1人暮らし開始
(2002. 9月)

・長男自宅に帰る
(2005. 4月)

・長男結婚
(2008. 10月)

・基礎年金受給
(2008. 12月)



※網掛けは変化がある倍数です。「非消費支出」は年収に対する割合で、1997年を1とした倍数です。

- ①「教育費」が無くなると顕著に増えたのは「教養娯楽費」や「職業主婦費」で2倍に増えていました。いまままで出来なかった旅行をしたり、カルチャーを始めたり、余暇を楽しむ事にお金を使っているようでした。
- ②「交際費」も増えています。近隣の人達が老いて亡くなったり、子どもたちも大きくなり、香典が増えたり、結婚祝いなど高額のお祝いが多くなりました。
- ③「水光熱費」は子どもが出たり入ったりすると違っていました。
- ④「食費」に関しては2009年以降、2人の子どもたちがいなくなっても減らず増えています。給料のほか年金の受給も始まり、収入も増え、外食が多くなったのが原因でした。
- ⑤「通信費」は携帯電話の使用やメールやいろいろな機能の使用で増加しました。
- ⑥年収に対する「非消費支出」の割合は14年間では少し減っています。子の扶養控除がなくなり、税金が多くなっても、子の国民年金がなくなった事や生命保険の見直しなどで、1997年より減少していました。

《感想》

教育費がなくなると、他の支出が多くなり、総支出は変わりません。教育費を捻出するために頑張ってやりくりをしていたのに。16年前を思い出し、老後のためにやりくりをしなくていけないと反省をしました。